

真宗大谷派宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業 学術研究助成（研究機関） 研究成果報告書

申請機関名：同朋大学仏教文化研究所（所長 安藤 弥）

研究事業名：親鸞・初期真宗門流の研究

- ① 研究論集『親鸞・初期真宗門流の研究』の刊行
- ② 史料展示「親鸞・初期真宗門流の世界」の実施

〔研究目的〕

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年」の機縁に際し、本研究では、特に「立教開宗」を考えていきたいが、「教えを立て、宗を開く」という意味には、「宗義」開頭と「宗派（教団）」設立の両義が同時にあり、主に後者に視点を据える。

楠信生「真宗開頭」（『教化研究』165、2019年）は「立教開宗」をめぐり五つの論点を示す中で、その五点目に「僧伽の志願」を掲げる。その提起に呼応しつつ、浄土真宗の「立教開宗」は親鸞における「僧伽」の出現、すなわち「同朋」（ともに仏の教えを聞く仲間）＝門弟集団の出現とその歴史的展開に意義があるものとするのが、本研究の基本的視座である。

真宗史研究においては、親鸞以降、蓮如以前の時代を「初期真宗門流の時代」と捉えるようになってきている。「初期教団」ではなく、「教団（宗派）」未成立の時代として、親鸞の法脈を受け継ぐ諸「門流」の展開を特に法宝物（信仰対象）史料の検討を中心に考察していくのが研究の最前線であるが、蓄積されつつあるその成果は必ずしも総合的にまとめられているわけではない。そこで、今回の機縁に他にない初めての「親鸞初期真宗門流の研究」論集を公刊し、あわせて史料展示を行い、今後の研究指標の提示と一般的理解の促進に学術的貢献を為すことにした。

〔研究成果①〕

- ・同朋大学仏教文化研究所編『親鸞・初期真宗門流の研究』刊行

出版社：法蔵館 刊行年次：2023年3月 判型・頁数：A5・520頁 定価：8800円

（目次）

巻頭言（真宗大谷派 宗務総長 木越渉）

緒言（同朋大学仏教文化研究所 所長 安藤弥）

総論

第1章 親鸞・初期真宗門流研究序説（安藤弥）

第2章 坂東における親鸞系諸門流の成立（吉田一彦）

第I部 初期真宗門流の地域的展開

第3章 横曽根門流の成立と展開（吉田一彦）

第4章 高田門徒の特色と変遷（山田雅教）

第5章 佛光寺と血脈（北島恒陽）

第6章 善性と磯部門流（草野顕之）

第7章 東北の初期真宗一岩手・盛岡本誓寺を中心にして―（蒲池勢至）

- 第 8 章 北陸の初期真宗（木越祐馨）
第 9 章 摂津・河内・和泉の初期真宗（上場顕雄）
第 10 章 西国の初期真宗（岡村喜史）
コラム 1 東海地域における初期真宗（老泉量）
コラム 2 出雲路乗専（安藤弥）
コラム 3 『存覚袖日記』寸考二題（安藤弥）
第 II 部 初期真宗門流の歴史的世界
第 11 章 親鸞真蹟をめぐる一考察（小山正文）
第 12 章 初期真宗本尊論（青木馨）
第 13 章 本願寺留守職少考（金龍静）
第 14 章 初期真宗の教義書（塩谷菊美）
第 15 章 〈初期真宗〉の聖徳太子信仰と史料学（藤井由紀子）
終章 初期真宗門流とは何かー初期真宗門流研究から導かれることー（脊古真哉）
コラム 4 諸家分蔵本「拾遺古徳伝絵」について（村松加奈子）
コラム 5 法然浄土教と初期真宗ー信仰対象としての善導ー（市野智行）
コラム 6 真宗初期遺跡寺院調査とそのフィルム資料群のデジタル化（川口淳）
後記（蒲池勢至・青木馨）

〔研究成果②〕

- ・同朋大学仏教文化研究所 2023 年度後期史料展示『親鸞・初期真宗門流の世界』実施
会場：同朋大学 Do プラザ閲蔵 1 階ギャラリー Do
会期：2023 年 11 月 21 日～30 日
構成：1、親鸞真筆『廟窟偈文』、2、『一念多念文意』断簡、3、浄土和讃文断簡、
4、光明本尊、5、高僧連坐影像、6、光明十字名号、7、光明九字名号、
8、雲上阿弥陀如来絵像、9、真向阿弥陀如来絵像、10、聖徳太子影像
その他、参考史料（実物・複製）も展示

〔課題・展望〕

上記の研究成果はいずれも公表に至り、今後の研究の礎になるものとする。

論集については刊行後、執筆者同士による相互書評会（成果と課題の確認）、また佛教史学会において書評会の機会を得ている（『佛教史学研究』に掲載予定）。

残された研究作業としては、同朋大学仏教文化研究所における 40 年以上の調査に基づく史料情報の整理・保管・活用がある。また、論集・展示内容をうけ、さらに発展的な研究の進行を期すものである。

以上